

## 港と川を結ぶ救援物資輸送の社会実験を実施します。

～輸送は環境にやさしい電池推進船で！～

横浜市では、現在、都心臨海部のにぎわい、水辺空間の活性化に向け、動力船や非動力船により港と河川の拠点を結ぶ「水上交通社会実験」を行っています。

このたび、大岡川河川再生計画（神奈川県）にも位置付けられている大岡川の親水施設（裏面参照）を、緊急時の荷揚げ場等として活用し、災害時を想定した救援物資輸送の社会実験を行います。実験では、災害時の早期復旧が見込まれる、電気をエネルギー源とした電池推進船（東京海洋大学・らいちょうN/らいちょうS）を使用します。

この実験の結果は横浜港の水上交通ネットワークの検討にも反映してまいります。

- 1 **実施日** 平成 26 年 10 月 27 日（月） 9：00 より実施 \*天候により中止になります。
- 2 **実施主体** よこはま都心部水上交通実行委員会
  - ・委員 長：小林直樹氏
  - ・メンバー：地元組織（大岡川川の駅運営委員会、NPO 法人「HamaBridge 濱橋会」）  
運航事業者（京浜フェリーボート㈱、㈱東京ベイガード）、横浜市
- 3 **協力機関**
  - ① 国立大学法人 東京海洋大学：救援物資の水上運搬実行者
  - ② 神奈川県横浜川崎治水事務所：河川管理者
  - ③ 横浜市経済局、中区、南区：救援物資の陸上運搬実行者、救援物資の受取者
- 4 **実験内容** 南部方面備蓄庫（金沢区）から災害時の救援物資を、船舶（らいちょうN）により象の鼻パーク前棧橋まで輸送し、小型船（らいちょうS）に積み換え、大岡川を利用して内陸部へ運び、桜棧橋及び蒔田公園で救援物資の輸送・荷揚げ実験を行います。（裏面参照）

① スケジュール

時間(予定)	内容
9:00～10:00	南部方面備蓄庫からベイサイドマリーナへ陸送らいちょうNへ積み込み
10:00～11:00	ベイサイドマリーナから象の鼻パーク前棧橋への輸送(らいちょうN)
11:00～12:00	救援物資積み替え(らいちょうN→らいちょうS) らいちょうSへの充電(らいちょうN→らいちょうS)
13:00～16:00	象の鼻パーク前棧橋から内陸部への輸送(らいちょうS)

② 使用船舶

ア らいちょうN

- ・全長 14.0m/全幅 3.5m/全深さ 1.5m
- ・電動機推進機出力 45kw×2

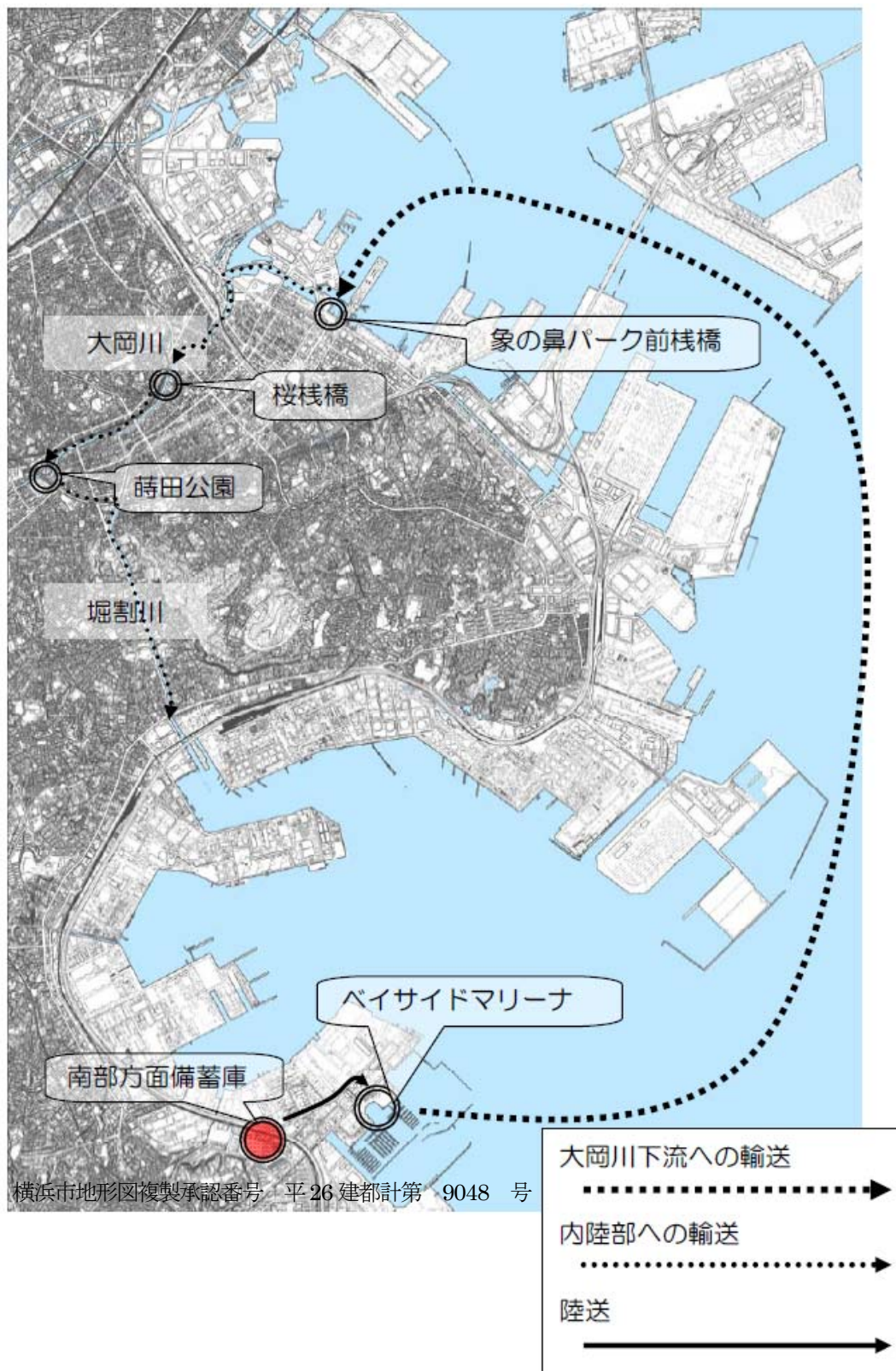
イ らいちょうS

- ・全長 8.04m/全副 2.24m/全深さ 0.85m
- ・電動機推進機出力 40kw



裏面あり

## 5 運航ルート



\*取材していただける場合は、事前に下記お問合せ先までご連絡ください。

お問合せ先	
都市整備局都心再生課地域再生まちづくり担当課長	渡邊 伸郎 Tel 045-671-4246
港湾局企画調整課事業推進担当課長	林 総 Tel 045-671-2885